

会計リテラシー×CFO的視座 経理・財務系次世代リーダー育成プログラム

人的資本経営が重視される中、経理・財務は「正しく処理できる」だけでは価値を示しにくくなっています。AIの進展、アクティビスト対応、非財務情報の価値上昇など環境変化が加速する今、次世代リーダー層が“企業全体を考える視座”を持ち、経営判断に関与できる状態をつくることが急務です。

本講座は、こうした課題意識を背景に設計した次世代リーダー向けのクローズド育成プログラム。狙いはCFO養成ではなく、CFOが見ている世界を理解し、経理・財務として企業価値に関与できる人材になること。CFOが企業価値を捉える視座（企業価値の源泉／外部評価／リスク認識）を手がかりに、自社の稼ぐ構造を会計で語り、数字の意味を踏まえた「判断に資する力」へ転換します。

その数字は社外からどう見られるか、会計判断が将来価値と信頼にどう影響するかを、対話とケースで考えます。単なる専門研修ではなく、企業価値を軸に考える人材（人財）育成投資です。ぜひともご検討ください。

開催概要

- 回数：全10回
- 開催期間：2026年9/2(水)、14(月)、28(月)、11/11(水)、25(水)、12/10(木)
- 開催形式：クローズド形式（下段参照）
- 定員：24名（各社につき2名様の参加とさせていただきます。）
- 対象：企業の経理・財務系のリーダー・リーダー候補の方
- 受講前提：お1人が全10回を通して受講することを前提としています
- 修了証：出席割合等の所定の要件を満たす受講者に本講座の修了証を贈呈
- 受講料：（一般：300,000円（税込）／名
法人会員：1企業につき1名無料（2名参加の場合は2名目のみ100,000円（税込））
- 会場：東京金融ビレッジ（大手町フィナンシャルシティサウスタワー5階）

👉 会場までのアクセス



お申込みはこちら



<https://business.form-mailer.jp/fms/3f85ec47352440>

何故、「クローズド形式」なのか？

「クローズド形式」とは、対面のみ（収録・配信なし）で実施し、少人数の定員制のもと、対話とグループワークを中心に進める講義形式です。講義内で扱われた内容は原則として外部に公開されません。本講座では、この環境のもと、経理・財務として押さえておくべき9つのテーマに取り組みます。受講者は安心して発言できる環境の中で、自身の考えを言語化し、他者との対話を通じて視野を広げていきます。さらに、異なるテーマに繰り返し向き合うことで、未知の課題にも自分事として考える思考の再現性が養われます。また、講義を通じた共通体験により一体感が生まれ、講座終了後も相談し合えるネットワークとして機能していきます。

本講座の設計要素

対面のみ・リモートも収録もなし
定員24名限定
対話重視で毎回グループワークを実施
経理財務として必要な9つのテーマ
修了証贈呈

メカニズム

- “非公開”が担保され、安心して発言できる
- 限定空間により信頼関係と交流が生まれる
- 自分の考えを言語化する（グループワーク）
- 他流試合により視野が広がる
- 異なるテーマを横断し、共通する思考の型を身につける
- 共通体験が可視化され、一体感が生まれる

効果

- 思考の訓練
→ 定型から意思決定に関わる側へ
- 未知の課題にも自分事で考えられる再現性
- 社外に相談できるネットワーク（機能する関係性）

受講者の声

本年3月に本講座のパイロット版として『AI活用成功事例の共有会（本講座2）』、『サステナビリティ開示の実務上の論点（本講座9）』、『ケースで学ぶ会計判断と意思決定（本講座10）』をクロード形式で実施しました。参加者様からは、「本音で語り合える場」、「他流試合で視野が広がる」との声が多く寄せられ、クロード形式の狙いと価値を実感いただける結果となりました。

具体的なAI活用事例が豊富で、自社での活用イメージを描くことができました。他社の取組や課題も知ることができ、新たな気づきにつながりました。



サステナビリティ開示は馴染みの薄いテーマでしたが、講義だけでなく参加者同士で議論することで理解が深まり、自社の状況も踏まえながら率直に意見交換できました。



ケーススタディを通じて、財務諸表の読み方や会計判断と経営判断とのつながりを学ぶことができました。他社参加者との意見交換を通じて、自分にはない視点や数値の捉え方に触れ、理解がさらに深まりました。



講座のご案内

各回テーマ・概要・講師

開催日時

1. 戦略ビジネスゲーム

『戦略ビジネスゲーム』とは、参加者が経営者の立場に立ち、限られた情報と資源の中で意思決定を行い、その結果を体験する参加型研修です。

本講座の導入として実施し、意思決定と数値のつながりを体感するとともに、参加者同士の対話を促進し、各講義で実践するグループワークの質を高めます。



9/2(水)
14:00-17:00

2. AI時代に「価値が上がる」経理・財務の条件

AIの進展により、仕訳・集計・レポート作成といった経理・財務の「処理業務」は急速に自動化されつつある。しかし、数字の背景を読み解き、経営判断に意味ある情報として届ける役割は、むしろ人間に求められる度合いが高まっている。本講義では、受講者自身の業務を「処理・判断・問いを立てる（提案する）」の三層で捉え直し、自分の仕事のどこに本当の価値があるかを見極める視点を養う。本講座全体の問題意識を共有する導入回として、「AIに奪われる仕事」ではなく「AIと共に高める仕事」への意識転換を図る。

<討議テーマ>

- ・現 状 診 断: 自分の直近1週間の業務を振り返り、「処理」「判断」「問いを立てる（提案する）」の三層に分類する。最も時間を使っているのはどの層か？
- ・役割の境界線: AIに任せていいか迷ったことがある業務を1つ挙げ、なぜ迷ったかをグループで共有し、言語化してみる
- ・価値の再定義: CFOが最も頼りにしたい経理・財務担当者とは、どのようなビジネスパーソンか。5年後の「なくなっていない仕事」ではなく、「より価値の高い仕事」を具体的に言語化してみる。



小松 義尊氏
スタークス株式会社
取締役CFO
公認会計士

9/14(月)
13:30-15:30

3. この数字は、意思決定に使われているか —管理会計を「作る」から「使われる」視点へ

管理会計は作成すること自体が目的ではなく、意思決定に使われてこそ意味を持つ。本講義では、CFOが数字を見る際の視点を手掛かりに、管理会計が「誰の、どの判断」に使われているのかを考える。現場で行われがちな形式的な数値管理や報告業務を振り返り、情報設計の観点から、意思決定に本当に資する管理会計とは何かを考えることで、作る側から使われる側への意識転換を促す。

<討議テーマ>

- ・自社の管理会計で、実際に意思決定に使われているものは何か
- ・作ること自体が目的化していると感じる資料はないか
- ・意思決定者にとって「本当に欲しい数字」とは何だと思うか



梅澤 真由美氏
管理会計ラボ株式会社
取締役ファウンダー
公認会計士

9/14(月)
15:45-17:45

4. 自社はどこで、なぜ儲かっているのか — ビジネスモデルと数字をつなぎ、稼ぐ源泉とその持続性を読み解く

すべての経営判断の出発点は、「自社はどこで、なぜ儲かっているのか」というビジネスモデルと稼ぐ源泉の理解にある。本講義では、売上・利益といった会計数値を入り口に、その数字がどの価値創出活動から生まれているのかを捉える。そのうえで、自社の稼ぐ構造は将来にわたって持続可能なかを問い直す。数字を「処理する」段階から、その背後にある価値の構造を「読み解く」段階へ— 経理・財務の次世代リーダーが経営の意思決定に関与するための土台を築いていくことを目標とする。

< 討議テーマ >

- ・ 自社の利益は、どの事業・顧客・活動から生まれているか— 最も重要な「稼ぐ源泉」はどこにあると考えるか
- ・ その稼ぐ源泉は、将来にわたって維持できる構造になっているか— 揺るがしうる要因は何か
- ・ 自社の会計数値は、現場の実際のビジネスとどこまで結び付いているか



村上 裕太郎氏
慶應義塾大学大学院
経営管理研究科 教授
税理士

9/28(月)
13:30-15:30

5. その会計判断は、企業価値向上に貢献しているか — 先回りして経営と事業を支え、信頼される経理へ

すでに発生した取引を会計基準どおりに処理するだけでは、社内と監査法人の間で板挟みになりどちらからも信頼されない。取引が発生する前に先回りすることで、経理は経営を動かし企業価値に大きなインパクトを与えることができる。経理が後追いの処理から脱皮し、事業を力強く支える方法を、ケーススタディを通じて学ぶ。

< 討議テーマ >

- ・ 自社で経理が先回りできる会計領域はどこにあるか
- ・ その領域において、経理としていかに企業価値の毀損防止と成長に貢献するか
- ・ 監査法人をいかに味方に付け、有効に「使う」か



玉井 照久氏
玉井公認会計士事務所代表
公認会計士

9/28(月)
15:45-17:45

6. 資本市場は企業をどう評価するのか — CFOに求められる企業価値設計とIRの実践

資本市場における企業価値は、社内での数値管理だけで決まるものではなく、市場においてどのように解釈されるかによって形成される。本講義では、投資家が企業の財務・未財務情報をどのような前提とロジックで評価しているのかを整理する。投資家の視点を踏まえ、CFOとして自社の企業価値の源泉を見極め、それをどのように経営に反映させ、資本市場と対話するかを考える。講義の途中では、提示する簡易な事例や問いをもとにディスカッションを行い、資本市場の視点を踏まえた企業価値向上のあり方を検討する。

< 討議テーマ >

- ・ 投資家は企業の何をどのように評価するのか
- ・ 企業価値の源泉はどこにあるのか
- ・ CFOとして企業価値向上のために何を重視すべきか



浜辺 真紀子氏
浜辺真紀子事務所(IR/ESG
コンサルティング)代表
公認会計士

11/11(水)
13:30-15:30

7. CFO的な視座から企業価値向上に貢献する投資とは何か — 資本コスト、キャッシュフロー、DCF、ROICから、価値重視の投資判断を再考する

投資判断は、企業価値に大きな影響を与える経営判断であり、新規投資時だけでなく投資後も継続される。本講では、資本コスト、キャッシュフロー、DCF法、ROIC等の含意を検討し、企業価値に影響する要素の所在を財務的な視点から確認を通じて、CFO的な視座に基づく判断基準の要所を整理する。

< 討議テーマ >

- ・ 近時の投資判断は、企業価値向上にどのように貢献しているか
- ・ 資本コストをどのように把握しているか
- ・ これからの事業ポートフォリオ管理はどのようにされるべきか



竹埜 正文氏
クリフィックスFAS
マネージング・ディレクター

11/11(水)
15:45-17:45

8. 何を守り、どこまで攻めるのか ―不正リスクガバナンスと経理財務の責任

企業活動には常にリスクが伴い、それをどこまで取るかは経営判断である。経営判断の結果が会計数値として利害関係者に報告される。そして会計数値は企業の意思が入っており、そこには守りも攻めもある。本講義では、不正リスクガバナンスの観点から、経理財務責任者として守りと攻めのバランスをどのように考えるべきかを考える。経理財務が果たすべき統制機能と、過度なリスク回避による機会損失の両面を捉え、最近の会計不正事例を踏まえて、経理財務が取るべき行動と課題及び現実の意思決定におけるリスク判断の在り方を検討する。

<討議テーマ>

- ・ 自社の経理財務にとって攻めと守りとは何か
- ・ 自社の経理財務に関するガバナンスは実効性を持って機能しているか
- ・ 経理・財務は経営のリスク判断にどう関与すべきか



辻 さちえ氏
株式会社bizサブ
代表取締役
公認会計士 公認不正検査士

11/25(水)
13:30-15:30

9. なぜ、いまサステナビリティ報告が求められているのか ― 財務諸表だけでは表しきれない企業価値を考える

本講座では、財務諸表だけでは表しきれない企業価値を切り口に、なぜ今サステナビリティ報告が求められているのかを考えます。投資家やステークホルダーが企業の将来性やリスク対応力を判断するうえで求める情報を整理し、日本におけるサステナビリティ情報開示制度の動向を概観します。講義とチームディスカッションを通じて、有価証券報告書における開示対応を題材に、CFOの視点から、開示、データ管理、内部統制、経営管理への関わり方を考え、自社の実務に活かすための視座を養います。

<討議テーマ>

- ・ サステナビリティ報告はなぜ求められるのか
- ・ 日本におけるサステナビリティ報告制度
- ・ CFO/財務・経理部門に求められる役割



大野 雄裕氏
EY新日本有限責任監査法人
サステナビリティ開示推進室
/IFRSデスク
シニアマネージャー 公認会計士

11/25(水)
15:45-17:45

10. 経営幹部としてどのようにアカウンタビリティを果たすか ― 意思決定を「自分の言葉」で語れるか

本講座の最終回では、これまで検討してきた会計、税務、非財務情報に関する判断を、最終的に誰がどのように引き受け、説明するのかを考える。会計や税務の判断は結果として数字に表れるが、それらは意思決定の過程で選択された前提や判断軸の積み重ねである。不確実性の高い環境下では、すべての判断に正解があるとは限らず、重要なのは「なぜその判断をしたのか」を自分の言葉で語れるかどうかである。

本講義では、公表資料を題材としたケース討議を通じて、判断の前提やリスク認識をどのように言語化し、社内外のステークホルダーに説明すべきかを考える。経理・財務として判断に関与する立場から、その判断を引き受ける立場への視座の転換を目指す。

<討議テーマ>

- ・ 自分が関与した重要な判断について、その前提・判断軸・リスクを第三者に説明できるか
- ・ 正解のない判断において、結果が想定と異なった場合、どこまでを自分の責任として引き受けるべきか
- ・ 会計・税務・非財務に関する判断を、一つの経営判断として整合的にどのように語るか



荻窪 輝明氏
公認会計士 税理士
経営学修士(専門職)

12/10(木)
15:45-17:45

クロージング：修了証贈呈

本講座の修了者には、日本公認会計士協会 南成人会長より修了証を贈呈します。

これは受講の証にとどまらず、「処理する人材」から「判断に資する人材」への転換を遂げ、未知の課題に向き合う力と、社外とつながる実践的ネットワークを獲得した証です。

修了証は、所定の要件(出席率等)を満たした方に贈呈します。あわせて本講座では、他者の意見を傾聴する姿勢や、討議への積極的な参加といった学びのプロセスを重視しています。



南 成人
日本公認会計士協会会長
JFAEL理事長

12/10(木)
18:00-18:45